



議会広報は
250号を迎えました

ドリブルでもっと楽しく！

9月15日

サッカークリニック

札幌大学サッカー部によるサッカークリニックが開催され、参加した美幌UFOサッカースポーツ少年団の選手たちはドリブルなどの基本技術とサッカーを楽しむ心を学びました。

びほろ町

ぎがい

議会広報発刊250号を迎えて

親しまれる・読んでいただける広報紙を目指して

● 議長あいさつ 2 P

9月定例会のあらまし

● 行政報告・補正予算など 4 P

● 決算審査特別委員会を設置・意見書 5 P

こんなことを聞きました

● 一般質問 12人登壇 5 P

町民に見える議会活動を目指して

● 議会報告会・意見交換会を開催 18 P

● 議会広報研修会に出席 18 P

No.250 記念号

令和5年11月1日

広報の発行は、5月・8月・11月・2月の年4回です。



議会広報 250号を迎えて

ごあいさつ

親しまれる

読んでいただける

広報紙を目指して



美幌町議会 議長
と ぎわ よしの り
戸 澤 義 典

昭和35年に議会広報紙の第1号を創刊してから60年余りの歳月を経て250号の発行を迎えることになりました。

本年は美幌町が町制施行100周年の節目を迎え、同じ年に議会広報紙250号発行の節目を迎えたことは誠に喜ばしい限りであります。

これまで発行に携わった諸先輩方のご労苦に敬意を表しますとともに、ご拝読いただいております町民の皆様から感謝を申し上げます。

さて、社会情勢の著しい変化とともに価値観の多様化や少子高齢、人口減少の時代にあつて、コロナ禍をはじめ新たな課題が次々と発生する中、町民に最も近い議会の役割は極めて重要なものとなっております。そのような中、議会としての活動内容をお伝えするにあつて、インターネットで情報を得ることができるデジタル社会になつても、実際に手に取つて読む

ことができる議会広報紙は大きな役割を担っていると考えております。

昨年、ペーパーレス化による資料の一元管理と情報共有を図るとともに、コロナ禍や災害時においても議会運営が可能な環境を整えるためタブレット端末を導入しました。情報を得る、情報を共有する手段として有効に活用しておりますが、情報を発信する手段としては議会広報紙に勝るものはありません。

250号の発行を契機に、さらに町民の皆様が親しまれる、読んでいただける議会広報紙を目指してまいりますので、今後とも議会に対する温かいご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。まして、ごあいさついたします。

議会広報のあゆみ



昭和35年3月 43年1月 (26号)	「議会だより」を創刊 タイトルを 「議会のうごき」に改称
48年10月 (50号)	「議会のうごき」No.50号発行 タイトルを 「びほろぎかい」に改称
49年5月 (52号)	第1回北海道町村議会広報 「コンクール」で「特選」受賞
56年2月 (79号)	「びほろぎかい」に改称 タイトルを 「びほろ議会だより」に改称 タイトルを
56年9月 (81号)	「びほろぎかい」に改称 第6回北海道町村議会広報 「コンクール」で「特選」受賞
57年5月 (84号)	100号の記念号を発行 第1回町村議会広報 全国「コンクール」で「優秀賞」受賞
61年2月 (99号)	第9回北海道町村議会広報 「コンクール」で「特選」受賞
61年6月 (101号)	紙面サイズをB5版から A4版へと変更
61年8月 (101号)	第9回町村議会広報 全国「コンクール」で「奨励賞」受賞
63年11月 (110号)	第9回町村議会広報 全国「コンクール」で「奨励賞」受賞
平成5年6月 (128号)	第9回町村議会広報 全国「コンクール」で「奨励賞」受賞
6年3月 (131号)	第9回町村議会広報 全国「コンクール」で「奨励賞」受賞

住民と議会を結ぶ広報紙に
議会広報250号発行を祝う



北海道町村議会
議長会会長
わた べ こう き
渡 部 孝 樹

美幌町議会広報「びほろ町ぎかい」250号の発行を心からお祝い申し上げます。創刊から60年以上が経過する中、広報発行に携われた皆様におかれましては、町民に親しまれる紙面づくりに日々努めてこられました。そのご功績に衷心から敬

意を表します。

創刊号が発行された当時、日本は高度成長期で石炭から石油へのエネルギー転換期であり、議会広報の発行がまだ珍しい時代でありました。現在では全道で約9割の議会で議会広報を発行しておりますが、これも美幌町議会が他に先駆けて広報発行を行ったことの賜物と言えます。

かしい成績をおさめられたことが証明しております。

スマートフォンなど多様な方法で情報を得ることができる現代においても、手に取り読むことができる議会広報紙は、住民と議会を結ぶパイプ役として今も有力なメディアです。

美幌町議会が、新時代の節目にあわせ更なる飛躍をされますようご期待申し上げます、250号記念のことばいたします。

町民と議会の架け橋として 議会広報250号を祝して



美幌町長
ひらの こうじ
平野 浩司

美幌町議会広報紙「びほろ町ぎかい」が発刊250号を迎えられますこと、心からお祝い申し上げます。

「びほろ町ぎかい」は、発刊されて以来、美幌の魅力や町の進展、町政の情報をも広く発信し、町民の皆様との結びつきを深める重要な広報媒

体となっており、この間、北海道並びに全国の議会広報コンクールにおいて幾度となく入選や優秀賞を受けておられ、常に高い評価を受けておられ、その優れたご功績は町民の皆様が認めるところであります。

さらに、デジタル社会の発展に伴い、情報発信の手段や形式も多様化しており、議会ホームページの開設、議会ICT化によるタブレット端末導入など、時代の変遷とともに広報紙以外でも分かりやすいコンテンツの提供、利用しやすい情報の発信方法を追求しており、議員はじめ

事務局職員の並々ならぬご努力に対し心から敬意を表します。

美幌町は、豊かな自然と豊富な資源、そして多くの優れた人材に恵まれております。この豊かな財産を次の世代に引き継ぐためにも、議員各位におかれましては「ふるさと美幌」の限らない発展のため、尚一層の尽力添えを賜りますようお願い申し上げます。

今後とも町民の皆様と議会の架け橋として広報紙の発刊を重ねられま
すことを心からご祈念申し上げます。
て、お祝いのことばいたします。



令和5年11月 (228号)	30年5月 (218号)	27年12月 (207号)	25年3月 (195号)	23年6月 (183号)	22年3月 (171号)	19年3月 (161号)	16年3月 (159号)	13年2月 (146号)	10年12月 (134号)	9年11月 (122号)	6年12月 (110号)
第250号の記念号を発行	第39回北海道町村議会広報 コンクールで「入選」受賞	第36回北海道町村議会広報 コンクールで「特選」受賞	第33回北海道町村議会広報 コンクールで「特選」受賞	第30回北海道町村議会広報 コンクールで「入選」受賞	第27回北海道町村議会広報 コンクールで「特選」受賞	第24回北海道町村議会広報 コンクールで「特選」受賞	第17回町村議会広報 全国コンクールで「奨励賞」受賞	第21回北海道町村議会広報 コンクールで「特選」受賞	150号の記念号を発行	第18回北海道町村議会広報 コンクールで「入選」受賞	第15回北海道町村議会広報 コンクールで「入選」受賞



9月定例会のあらまし

- 12日** 会期を4日間と決定し、町長から行政報告（ご寄贈・人事異動・7月13日の大雨被害状況・国保病院の医師退職及び医師確保）を受け、議員4名（藤原・馬場・上杉・大原）が一般質問に登壇し、公共施設整備、大雨被害対応、学校の猛暑対策、教育行政などについて活発な議論が交わされました。
- 13日** 議員5名（木村・宮崎・松浦・伊藤・稲垣）が一般質問に登壇し、若手世代支援、子育て支援、財政運営計画、農業担い手対策、障がい者（児）への理解と支援などについて活発な議論が交わされました。
- 14日** 議員3名（大江・横山・吉住）が一般質問に登壇し、循環路線バス拡大、経済対策、町長の政治姿勢などについて活発な議論が交わされました。次いで、議案審議に入り、議会提出案件であります選挙管理委員会委員及び補充員を指名推選により選挙しました。続いて、専決処分の承認、人事案件（教育委員会委員・懲戒審査委員の任命）を審議し、いずれも原案どおり承認、同意しました。
- 15日** 議案審議に入り、条例の新規制定・一部改正、補正予算案（一般会計・国民健康保険特別会計・介護保険特別会計・水道事業会計・公共下水道事業会計・個別排水処理事業会計）などを審議し、いずれも原案どおり可決しました。次いで、令和4年度各会計決算認定は決算審査特別委員会を設置し、閉会中の継続審査としました。その後、3件の意見書案を可決し、5件の報告を受け、議員の派遣、各常任委員会からの「閉会中の継続調査」の申し出を承認し、全日程を終了し閉会しました。

町長の行政報告(要旨)

■ご寄附

株式会社ビホロ車輛様から創業50周年の節目にあたり町で広く活用していただきたいと自家用軽貨物自動車1台（150万円相当）のご寄贈をいただきました。ご厚志をありがたくお受けし、ご趣旨に沿って活用してまいります。

■令和5年7月13日の大雨に伴う被害状況など

人的被害や住家被害は確認されませんでした。土砂被害は町道の道路洗掘などが57箇所、河川の土砂流出などが4箇所発生し、農業被害は農地崩落・土砂流出などの農業用施設への被害が104箇所、農作物への被害は97.29ヘクタールにも及んでおります。被災されました皆様に対しまして心からお見舞い申し上げます。町として直ちに町道などの応急処置や復旧作業にあたっているほか、災害復旧事業の対象となる被害は関係機関に要請を行うなど早期の復旧に向けて全力で取り組んでおり、町民の方々の生活に支障を来たすことのないよう、引き続き対応を図ってまいります。

■美幌町立国民健康保険病院の医師の退職及び医師確保

令和5年7月5日付けで一身上の都合により草野学（くさの まなぶ）内科医師が退職しました。また、令和6年4月1日付けで土田哲（つちだ あきら）脳神経外科医師と非常勤医師として土田千賀（つちだ ちか）放射線科医師を採用する予定です。今後も地域医療を守り良質な医療サービスを提供するため、引き続き必要な医師確保に取り組んでまいります。

※その他「職員の人事異動の発令」について報告がありました。

こんなことを決めました

専決処分の承認

■令和5年度美幌町一般会計補正予算(第4号) 1億1,619万7千円

7月13日発生の大雨による災害復旧のため急を要し専決処分をしたことを承認しました。

■令和5年度美幌町病院事業会計補正予算(第2号) 660万2千円

給水設備の故障に伴う緊急対応及び機器更新のため急を要し専決処分をしたことを承認しました。

人事案件

任命の同意及び選挙により次の方々に決まりました。

■教育委員会委員

大沼 美紀 氏(再)

■職員懲戒審査委員会委員

森 一也 氏(再)

久山 祥子 氏(再)

那須 清二 氏(新)

■選挙管理委員会委員

早田 眞一 氏(再)

横山 直樹 氏(再)

石川 真里子 氏(再)

寺田 義博 氏(新)

■選挙管理委員会補充員

高崎 義明 氏(再)

和田 隆 氏(再)

新庄 香 氏(再)

工藤 伸 氏(新)

補正予算

■一般会計

- 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した子育て世帯生活支援特別給付金給付・肥料価格高騰対策支援金・酪農経営安定対策支援金・学校給食費補助金 7,508万9千円
- 7月13日発生の大雨に係る災害復旧経費 4,510万円
- 公共交通運輸手確保に係る支援 308万円

■国民健康保険特別会計

国民健康保険税還付金の増額など

■介護保険特別会計

過年度介護給付費返還金の増額など

すべて原案どおり可決しました。主な内容は次のとおりです。

■水道事業会計

生活基盤施設耐震化等交付金の事業精査に伴う国庫補助金の減額など

■公共下水道事業会計

対象経費の精査に伴う企業債の増額など

■個別排水処理事業会計

特例的收入及び支出に係る予算の整理など

条例の新規制定・改正

■美幌町子ども医療費助成に関する条例の一部改正

満3歳から満15歳(中学校卒業)までの住民税課税世帯に属する受給資格者の医療費について、令和6年2月診療分から健康保険適用の自己負担額を全額助成するため改正

■美幌町農地及び農業用施設災害復旧事業分担金徴収条例の制定

被害を受けた農地及び農業用施設の災害復旧事業の実施にあたり、復旧費用の一部を受益者から分担金として徴収するため、必要な事項を定めた条例を新たに制定

令和4年度各会計決算認定は特別委員会を設置し付託

令和4年度一般会計、特別会計(国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険・公共下水道・個別排水処理)及び水道・病院事業会計の決算認定について、特別委員会を設置して付託。

次のとおり委員を選任し、閉会中の継続審査を行うこととしました。
審査結果については、次の議会において報告し、審議する予定です。

一般会計等決算審査特別委員会

委員長	ふじ 藤 原 公 一	副委員長	ば 馬 場 博 美
委 員	おお はら のぼる 大 原 昇	委 員	まつ うら かず 松 浦 和 浩
委 員	よこ やま きよ み 横 山 清 美	委 員	みや ざき なつ え 宮 崎 奈津江

企業会計決算審査特別委員会

委員長	い とう しん じ 伊 藤 伸 司	副委員長	たか はし ひで あき 高 橋 秀 明
委 員	おお え みち お 大 江 道 男	委 員	うえ すぎ あき お 上 杉 晃 央
委 員	いな がき じゅん いち 稲 垣 淳 一	委 員	き むら とし あき 木 村 利 昭



委員会報告に向けた書類審査の様子

3件の意見書案を可決し関係機関へ提出

- 軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書
- 肥料・燃油などの生産資材等高騰対策の強化を求める意見書
- 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

令和5年9月定例会では、3件の意見書の提出を求める要請・陳情のうち、すべての意見書案を可決し、国の関係機関へ提出しました。

一般質問とは

一般質問は定例会において、議員が町政全般にわたり執行機関(町や教育委員会など)に対し、事務執行の状況や将来に対する方針の考え方、疑問点などについて質問するものです。

一般質問は議員固有の権限の一つで、議案審議とともに議会活動の中にあつて最も重要なものであり、行政の執行を監視し、建設的に政策を論議することで、公正な行政を確保するものです。

■松浦 和浩 議員 …12頁 ①第3次美幌町財政運営計画 ②公営住宅入居者負担の設備	■宮崎奈津江 議員 …11頁 ①子育て支援の充実	■木村 利昭 議員 …10頁 ①若手世代が住み続けた ②と思うまちづくり	■大原 昇 議員 …9頁 ①危機管理行政 ②教育行政	■上杉 晃央 議員 …8頁 ①公共施設の暑さ対策	■馬場 博美 議員 …7頁 ①大雨に伴う災害対応 ②熱中症対策 ③通学路等の交通安全対策	■藤原 公一 議員 …6頁 ①公共施設整備 ②こども総合支援 ③認知症対策
■吉住 博幸 議員 …17頁 ①国保病院事務室の環境改善 ②峠の湯びほろの施設整備 ③ドローンの活用 ④専任の検査員の配置と調査等にかかる予算計上 ⑤町長の政治姿勢	■横山 清美 議員 …16頁 ①経済対策 ②労働力不足解消 ③部活動の地域移行	■大江 道男 議員 …15頁 ①循環路線バス拡大 ②補聴器購入助成制度 ③小中学校へのクーラー設置	■稲垣 淳一 議員 …14頁 ①障がい者(児)への理解と支援 ②特別支援教育	■伊藤 伸司 議員 …13頁 ①農業の担い手対策 ②デンブン原料用馬鈴薯 ③空家等対策		

一般質問

12人が登壇

質問者と質問項目

各議員の一般質問録画映像はQRコードからアクセスできます



◆ 藤原 公一 議員
ふじわら こういち

公共施設 整備

問 学校教室の猛暑対策は

答 児童生徒の命の危険を守る健康に配慮した
教育活動を継続したい

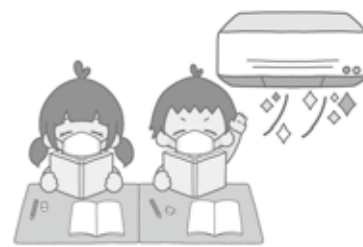


問

学校教室の猛暑対策として児童生徒の命を守るためにエアコンの設置は。

答

児童生徒の命の危険を守るとともに健康に配慮した教育活動を継続する。エアコン、窓取付用クーラー、移動式スポットクーラーなどの各冷房設備について検討したのち整備に取り組みたい。



問

公共施設トイレの洋式化は。また、トレーニングセンターや避難所になる学校の洋式化は。

答

トレーニングセンターは来年から実施する施設改修工事に合わせて洋式化する。その他の公共施設は必要に応じて順次洋式化を進めていきたい。

問

スポーツ施設の整備計画について、美幌町の陸上競技では全道、全国で優秀な成績を収めている。同じ環境での練習が望ましいのでは。また、テニスコートやプールの整備は。

答

美幌町スポーツ推進計画において、今後の人口の見通しや年次の財政支出を考慮して最大の効果を上げられるよう検討したい。



こども総合支援は

問

COCOLOプラン
誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策は。また、不登校の子供たちの保護者の会の設置は。

答

現時点では保護者の会の設置まで考えていない。情報提供はスクールカウンセラーや教育相談室を通じて取り組んでいる。

答

家庭、学校、教育委員会が連携して不登校対策を講じてまいりたい。

問

フリースクールとの連携は。

答

多様な学習機会が確保されるようフリースクールとも連携しながら誰一人残されない学びの保障に向けて取り組んでいきたい。

問

ヤングケアラーに対する支援は。また、実態調査は。

答

町内の小中学校から事案報告はないがヤングケアラーと思われる子どもたちを見逃すことの無いように、教職員、スクールカウンセラーや民生委員・児童委員との連携により早期発見に努めてまいりたい。

認知症対策

問

認知症基本法改正に伴う今後の計画は。また、認知症の人や家族が安心して暮らせる環境整備は。

答

計画の策定については法律の施行後に国が示す認知症施策推進基本計画との整合性を鑑みて検討を進めてまいりたい。

各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



◆ 馬場 博美 議員
ばばひろみ

大雨の 災害対策

問 農地等の被害に対する町の支援策は

答 災害復旧事業の活用や多面的機能支払交付金によって
復旧が進められている

問 農地及び農作物等の最終的な被害状況及び被害金額は。

答 農地の被害状況は、農地等の災害復旧事業に向けて調査を行った49箇所で崩落、流出、土砂堆積などの被害を確認し、概算被害額は3千万円と算出している。また、農作物の被害面積は、作物の水没、土砂埋没、流出など合計で97・2ヘクタールの被害を確認している。



大雨による被害

問 農地等被害箇所のうち、17箇所約680万円を多面的機能支払交付金で修繕している。残りの箇所について、今後、多面的機能緊急確保負担金を追加して対応すべきでは。

答 なお、農作物の被害額は農業共済組合が積算を行っている。

答 細部を再度確認したい。災害なので農家になるべく負担しないように対応したい。

熱中症対策

問

町内の小中学校の熱中症対策及びエアコン設置の考えは。

答

水筒持参や保健室で休息を取っている。また、熱中症警戒アラートが発表され、かつ、暑さ指数が33を超える予想が発表された場合は、小中学校を臨時休校にしている。エアコン設置については、補助の活用を含めてどれが一番財政的に有利なのか検討する。最近の情報では、各市町村で来年つれるところが多い状況でエアコン等が不足することが想定されるので、場合によって

は補正予算で考えた

問

民間施設もクーリングシエルターとして開放すべきでは。

答

クーリングシエルターとして指定できるよう民間施設の協力を得られるように進めたい。

問

75歳以上の一人暮らしの高齢者等に対して保健師等による電話連絡や自治会あるいは民生委員等の協力を得て、自宅を訪問し、クーリングシエルターへの送迎、予防啓発チラシとクールタオル等の予防グッズを配付するなど、熱中症予防を呼び掛けるべきでは。

答

民生委員に回ってもらうことも考えたが、取りあえず広報

車で細かく回ろうと対応した。次回に向けてしっかりと体制をとる必要がある。

通学路等の交通安全対策

問

関係機関による合同点検によって抽出した危険箇所について、改善に向けての早急な対策及び年に一度は関係機関による通学路の合同点検や対策会議をやるべきでは。

答

関係機関と随時情報交換しながら対応していきたい。



通学路を歩く子どもたち

各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



◆ うえすぎ あきお
上杉晃央 議員

公共施設 暑さ対策

問 小中学校の暑さ対策と冷房設備の整備は

答 スピード感をもって検討、状況により
補正予算も視野に取り組みたい

問 今年、北海道の真夏日は過去の記録を更新し、異常な夏であった。学校は想像以上に過酷である。小中学校の暑さ対策と今後、年次計画で冷房設備を整備する考えは。

答 水筒を持参してこまめな水分補給、体調不良時は保健室での休息を取っている。暑さ指数31を超えた場合、原則

運動を中止し、熱中症アラート発表と同時指数33を超える予想発表時は臨時休校としている。命を守り、教育活動継続のため、エアコン、窓取付用クーラー、移動式スポットクーラーなどの長短所を検証し、財政状況など勘案して整備に取り組みたい。

問 現状の簡易クーラー、扇風機でしのいでいるのは極めて不十分である。学校長との面談で猛暑の実情を伺い、校内でも熱中症の危険は避けられないとして早い冷房設備の設置を望んでいるが、一番必要な対策は早急な冷房設備の整備である。教育委員会の

対応は。

答 2年前、別の議員からの質問時に、受電設備改修を含め当時の見積りが1.5億円程であったため、優先順位で難しいと判断した。来年は冷房設備の設置を取り組みたい。

問 令和元年に保健室にエアコンを整備し、今年には予算執行残で小中学校に1台ずつスポットクーラーを導入した。

答 網走管内の普通教室の冷房設置率は津別町・清里町・小清水町は100%である。町の冷房設備の導入は令和6年度実施の考えか。

来年度の設置は、



小学校に設置している扇風機

問 各市町村でも整備集中が予想され、令和5年度補正予算での発注も視野に入れている。

問 異常な暑さであり町長は小中学校の整備を認めていく考えか。

答 特に学校施設はスピード感をもって取り組むよう指示している。財政状況を踏まえてと答弁したが、実施することを前提に、来シーズンに授業ができないことのないようしっかりと取り組むよう教育長に話している。

備の考えは。

答 冷房設備は一部の施設で扇風機や換気に対応している。施設の利用状況を調べ、取付手法や計画的な整備を検討したい。

問 子どもが利用する保育園、子育て支援センターや高齢者が利用する施設を優先し整備する考えは。クーリングシエルトの取組は評価するが、わかりやすい名称を含め検討したかどうか。

答 冷房を設置すべき施設の洗い出しを指示している。優先順位を検討し、もう少しの段階で説明できるようにしたい。今後、避難施設として開放できる表示など周知方法についても検討したい。

各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



小中学校の 統廃合

◆ 大原昇 議員
おおはらのぼる

問 小中一貫教育の議論より
学校の統廃合の議論が最優先と考えるが

答 町立学校の適正化と小中一貫教育の検討を進めたい



問

現在、小中一貫教育について教育委員会
で議論されているが、
現在の美幌町の出生
数が年々減少し、昨年
は61人であった。各小
学校のクラス数をみ
ても大半が1クラス
しかなく、単校毎での
行事、クラブ活動など
にも影響があると思
われる。また、子ども
たちがやりたいクラ
ブが学校にないため、
できないという不平
等さが出ているよう
に思われる。教育の不

平等を無くすために
も、早期に小学校、中
学校の統廃合を行う
べきと考えるが。

答

学校行事である運
動会、吹奏楽活動に
おいても小学校間で
合同チームを編成
し、コンクール出場
に向けた練習を行っ
ていることから、学
校活動、クラブ活動
にも影響はないと認
識している。また、近
年の少子化傾向を踏
まえ、今後の児童生



図書館建設

問

小中学校の統廃合
ができれば、1学校
につき約1億円の経
費が削減できるもの
と思われる。削減で
きる約1億円を基金
積立てして建設準備
をすることはできな
いか。

答

一昨年には小中学
校の長寿命化計画も
策定した。維持する
には40年で10億円以
上かかる試算もある
ので教育に財政議論
は非常に大事なこと
だと思っている。

美幌高校間口対策

問

美幌高校への入学
者数が減少し間口も
削減しているが、北
見市内の高校の定員
は北見市の出生数よ
り多いのが現状であ
る。1市4町で締結
した「定住自立圏の
形成に関する協定
書」に基づき、高校間
口対策についての議
論はできないか。

答

令和9年度以降に
北見市内及び周辺町
の再編整備を含めた
配置の在り方の検討
が必要とされ、道教
委主導により1市4
町の首長と教育長が
出席した「高校の在
り方検討会議」が開
催されており、高校
配置についても議論
されているところ。

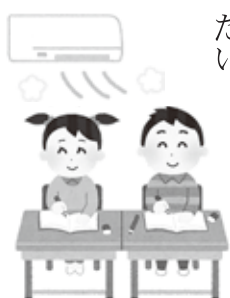
小中学校の環境改善

問

ここ数年、30度を
超える日が年々増え
てきている。今後も
毎年温度が上がり、
日数も増えるものと
思われる。これだけ
高温の日が続くと児
童生徒の学校生活、
学習に影響がある
と思うが、基金を取
り崩しても早急にエ
アコンを設置すべ
きと考えるが。

答

高温の影響は来年
以降も予想されるた
め、児童生徒の命を
守るためにも、財政
状況を勘案し、エア
コン、移動式スポッ
トクーラーなどの設
置について取り組
みたい。



各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



◆ 木村 利昭 議員
きむら としあき

若手世代 総合支援

問 若手世代が住み続けたいと思える
取組についてどのように考えているのか

答 子育て・教育については最重要施策として
その他の面についても力を入れていく

問 教育・住宅・仕事の
3点が重要な要件で
あると考えるが、その
3点に関して、美幌町
はどのような施策を
考えているか。

①教育の面では、過
去の人材不足の質問
に対し、なかなか踏み
込めないとの答弁で
あったが、保育士不
足、一時預かりの条件
拡充や情報発信につ
いて、町としてどう対
応していくか。

答

保育士不足はまさ
に、深刻な状況であ
る。北見市社協での
職場説明会に今年初
めて出席してPRを
行った。専門学校等
にも働きかけ人材確
保に努めている。
一時預かりに関し
ては、子育て支援セ
ンターの利用者など
にアンケート調査を
行い町民のニーズを
調査した上で要件緩
和できるように拡充
していききたい。情報
発信に関しては、議
員ご指摘のとおり各
種SNS、その他媒
体を活用して町内外
へ働きかけられるよ
う取り組みたい。

問

②住宅の面では、若
い世代が住み続けら
れる、地元に戻りたく
なるようにするため、
また、移住者促進の観
点からも重要な課題
だがどのような政策
を考えているか。

答

住宅に関しては、
結婚し生活を始める
世帯に住宅取得や
引っ越し費用を補助
する結婚新生活支援



事業、住宅リフォー
ム促進事業を実施、

住宅リフォーム促進

事業をより使いやす

くするため、制度の

見直しを行ってい

る。住環境の整備は

重要で、空き家対策

を含めて活用を考

えている。また、今年

度はワーキングス

ペース「KITEEN」

を開設しテレワーク

の環境も整備した。

インターンシップ

にも関わってもら

い、「美幌の人のよ

さ」を関係する人た

ちから広げてほしい

と考えている。

問

③仕事の面では、民

間企業の人材不足は、

本場に深刻。人がい

なければ仕事が回ら

ず、雇用も生み出せない

が、町としての取り組

みと方針は。

答

仕事の分野におい

ては、官民一体と

なって取組を進め、

人材不足の解消、人

材確保の支援などを

進めたい。雇用対策、

移住施策などの戦略

を立てる必要があ

る。

マネージャー的人

材の地域おこし協力

隊員を今後増やし、

満足される取組を進

めたい。



各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



子育て支援の 充実

◆ 宮崎 奈津江 議員
みやざき なつえ



問 ①一時預かり保育事業の内容見直しは
②保育士や指導員の確保は

答 ①ニーズに合わせ広い視点で事業を進めていきたい
②話し合って働く環境を改善していきたい

問

町で行っている一時預かりの保育は、条件が限られているが利用が年々増えている。町のアンケート調査では「休日祝日利用」「時間の延長」「いつでも気軽に」「親のリフレッシュ」「手続きを簡単に」「などの要望がある。また民間の預かり保育利用者に聴き取りをしたところ、保育者の高齢化も進

答

み「もう限界」との話もある。子育てを「しんどい」と思う前に保護者支援が必要と考えるが、町の一時預かり保育の拡充を進めるにあたって事業内容の見直しは。現在、多様なニーズが寄せられている。「親のリフレッシュ」など保護者の支援拡充を行う必要があることから今年度コミュニケーションセンター内の和室を保育室にする改修工事を行い、来年度から事業を拡充する。住民ニーズの把握に努め、子育て期の切れ目のない一体的な取組を行ってきたい。

問

不足している内容を具体的に。

答

安心して相談できる体制づくり、支援が必要な家庭の把握、支援が必要な家庭の継続的なかわりについて具体的にこれから進めたい。

問

昨年度、自主的に相談して預かりにながったケースは0件で、相談先はあっても公立の相談先になかなかいかない。困った方の支援もあるが、一般的な方への支援拡充は。

答

両方の側面で考えた

保育士指導員の確保



い。さまざまな条件で預けたいというニーズがあると思う。一つ一つのカテゴリーにこだわらず、広い視点で進めたい。

問

一時預かり保育施設を拡充しても保育士不足で預けられない。町全体の保育士や指導員の確保が課題である。正規職員は専門職にもかかわらず事務仕事が増え、保育士や指導員の半数以上は会計年度任用職員で収入の格差、他の施設との連携体制になっていない。また、心理的不安や雇用環

答

保育士不足は喫緊の課題である。北見で新たなPR方法や学校に広く案内している。保育士の事務仕事は簡素化を図り負担減を進める。また、保育士や指導員の生の声を聴き、改善すべき点は改善し話し合いをしながら、働く環境を改善して、長く勤めていただきたい。



各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



◆ 松浦 和浩 議員
まつうら かずひろ

財政運営
計画

問 町民税などの地方税の今後10年間の確保対策は

人材確保に取り組み
地或経済の縮小に歯止めをかけた

税収確保の産業対策は福祉産業も教育産業も含めたすべての産業という分野である。産業統計人口も含めて財政運営計画の税収部分の見直しも必要と思う。人口ビジョンの展望と財政計画に差がある。一度立ち止まって数字のチェックをするべき時期が来たと思うが。

答

現実的な今までの
 税収の伸びを推計
 し、分析の中で1つ
 の仮定を置いてい
 る。計画期間中のも
 のについてはそれほ
 ど乖離はしていな
 い。

問

産業別人口比率からどの業種が必要なのか。また、生産年齢人口の減少をどのように考えているのか。

答

減少となる分布の分析は必要と思う。就労人数の部分と減少となる部分についてそこまで正式に分析していない。



第3次美幌町財政運営計画

問

エッセンシャル
ワーカー（日常生活に
必要不可欠な職種の
就労者）の人材確保と
支援については令和
3年にも一般質問を
した。個人町民税・法
人町民税の確保対策
においても重要な政
策と思う。医療・介護
の支援は進み、運転手
の支援策も拡大され
ることになったが、ガ
ス・電気・水道などの
公共インフラ事業者
の支援策が見えてい
ないと思うが。

答

指摘をしていただいたとおり、きちんと皆様と考えるいく必要はあると思う。

問

ふるさと納税で美幌町の企業は全国に紹介されている。広告費用などの他町村と同じ政策もあってよ

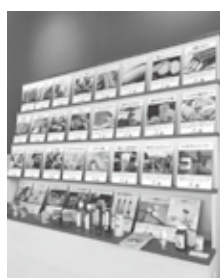
いと思うが。

答

今は全体的なPRをしており、今言われたことまで進むか今後考えていきたい。

答

公営住宅入居者負担の
設備支援対策



美幌峠レストハウス
ふるさと納税特設コーナー

風呂釜や浴槽のリース契約の更新が近づいている世帯がある。資材高騰により現在の月額が大幅に上がる見込みがある。入居者の生活に直接影響すると思うので更新リース代の対策が必要では。

答

これについては
しっかりと対応を進
めたい。

各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



農業 担い手対策

◆伊藤 伸司 議員
いとう しんじ

問 新規就農者対策は

答 美幌町営農対策推進協議会・
新規就農支援チームが主体となって取り組んでいく



問

農業従事者数は、
農林業センサスによ
ると、2015年は
1048人、2020
年は977人となっ
ており、5年間で約
7%減少しているが、
特に高齢化により農
業を辞める方が年々
増加している現状に
ある。

このようなことか
ら、10年後における
美幌町の農業を考え
たとき、多くの農業
後継者を育成するこ

とがなにより重要で
あるが、どのように
新規就農対策を進め
ていくのか。

答

本町における過去
10年間の新規就農者
は4名で、農家子弟
などの就農者は53名
であった。離農者か
ら農地や機械などを
含めた経営体一式を
一括で引き継ぐ「第三
者経営継承方式」によ
る新規就農を推奨し
ており、新規就農支援
事業として研修や補
助に取り組んできた。
今後も美幌町の農業
が持続的に発展して
いけるよう農業後継
者を含め新たに就農
を目指す方の支援を
継続していきたい。

デンブ用馬鈴薯不足

問

北海道産の馬鈴薯「デ
ンブ」粉は、食品以外に
も、医薬品、工業分野な
ど幅広く利用されてお
り、コロナ禍後の経済活
動回復によりさらなる
需要が見込まれている。

一方、デンブ原料用
馬鈴薯の作付面積が減
少している。その要因と
しては、生産者の作業負
担が大きいことや他作
物への転換などが進ん
でいることなどが考え
られる。美幌町における
デンブ原料用馬鈴薯
不足の対応は。

答

本町の基幹作物で
あるデンブ原料用
馬鈴薯の作付面積の

維持、安定生産に関係
自治体等と連携を
図っていきたい。



空家等対策

問

少子高齢化による人
口減少、家族構成の変化
及び建物の老朽化に伴
い、長期間使用されてい
ない「空家等」が増加し、
地域住民の生活に影響
を及ぼしている。国は
「空き家等対策推進に関
する特別措置法」を制定
した。これらを受け「美
幌町空家等対策計画」を
策定したが、どう取り組
んできたのか。また、今

後の対応は。

答

本町における空家
等対策計画に基づき
「管理不完全な空家等
の解消」、「空家等の利
活用」、「空家等の発生
抑制」という3つの視
点で取り組んでいる。
今後に向けては、実態
調査の結果をもとに、
空家等対策協議会で
空家の有効活用につ
いて検討してまいり
たい。



各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



障がい者 支援

◆ 稲垣 淳一 議員
いながきじゅんいち



問 ヘルプマーク普及啓発に積極的な取り組みを

答 定期的に町ホームページ、広報紙に掲載し
各種行事などでも周知したい

問 昨年5月に知的障がいのある青年が帰宅途中、不審者がいたとして通報され、美幌警察署で事情聴取を受けた。家族は対策としてヘルプマークを持たせて通勤させるようにしたとのことである。これは義足や内部障がい、難病の方、知的障がい等々、外見からは分からなくても援助や配慮を必要とし

ている方々が周囲の方に知らせることができるマークである。しかしながらこのマークの意味を知らない方が多くいる。まだまだ認知度が低いヘルプマークの普及啓発を積極的に行うべきでは。

答 今後、ヘルプマークやヘルプカードの意味を広く町民全体に周知し、必要と感じている方が安心して携帯できるよう、思いやりのある行動を進めてまいりたい。定期的に町のホームページや広報紙に記事を掲載するほか、各種福祉関係の行事などにおいても周知

を行つてまいりたい。

ヘルプマークは、外見からは分からなくても援助が必要な方が身につけるマークです。



助け合いのしるし
ヘルプマーク

インクルーシブ教育

問

北海道教育委員会は今年度から5年間を計画期間とする新たな「特別支援教育に関する基本方針」を策定した。障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の理念の下、すべての子どもたちが障がいの有無にかかわらず、多

様な個性を互いに認め合い、支え合いながら、共に学んでいくことができる環境を醸成し、誰もが生き生きと活躍できる社会が実現するよう特別支援教育を推進している。

幼児期から卒業、就労まで切れ目のない支援を図るようにし、保護者への情報提供に力点を置くというインクルーシブ教育システム導入についての考えは。

答

道徳、生活、音楽、体育などの教科のほか特別活動や総合的な学習の時間においては普通学級に特別支援学級が加わり、交流学习として障がいの有無に関わらず授業を実施している。

特に、小学校では、支

援を要する子どもの数は全体の約3割を占めている中において、すべての子どもが同じ場所学ばう教育の実現は、個々への支援や配慮が行き届かない恐れがあることから現時点では難しいと考えているが、インクルーシブ教育の考え方を理解しながら一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を最大限に考えて進めたい。



各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



地域公共交通

◆ 大江道男 議員
おおえ みちお

問 循環バス路線を美富、美禽にも拡大を

答 直ちに運行区域拡大は難しい状況にあるが
地域住民の意見を踏まえ検証したい



問 美幌町循環バスは、営業路線バスとの競合を避けて運行されているが、営業バス路線は経営上の理由から路線の廃止や便数削減が続いている。美富・美禽地区は本年7月から北見バスが4便減便で通院に不便となり、土曜日も運行している町の循環バスの運行を望む声が高まっている。早急に見直しを図るべきでは。

答

美富・美禽地区は既存のバス路線との競合を避け、町の路線バス運行としかかった。変化に対応し運行区域の拡大・見直しは必要と考えているものの、運転手確保など直ちに運行区域拡大は難しい状況にある。地域住民などの意見を踏まえ検証を図りたい。



補聴器購入費助成を
早期に

問

一昨年6月、昨年12月議会会で「難聴が認知症の誘因」「補聴器不使用は経済的理由」であり、健康寿命を延ばすために町が補聴器購入に助成するよう求めてきた。世界の補聴器保有率調査で「高度の難聴以外助成されない日本が15%」に対しデンマークの55%をはじめ欧州各国が軒並み40%を超えており、無償、公的助成が制度化されている。今年6月成立の認知症基本法は都道府県や市町村に対し認知症の予防に取り組むことを求めている。

る。国の支援ができる前に、美幌町として補聴器購入費助成に踏み切るべきでは。また、無料で手に入る欧州でも普及率は60%を下回る状況から、町として補聴器装着の必要性の啓発をしては。

答

「難聴が認知症の最も大きい危険因子」であることは承知している。本来は国がやるべきなのにやらないので、もう待てない。これから具体的な提案の内容を詰めてまいりたい。また、年齢とともに聞こえづらくなつた方が補聴器を装着



して、その素晴らしさや笑いを取り戻していたたく仕組みづくりを図っていきたい。

問

学校などへの
クーラー設置

猛暑は来年以降も続くと見込まれる。全小中学校をはじめ幼稚園、保育所、高齢者施設へのクーラー設置が必要では。

答

小中学校へのクーラー、エアコンの設置は、窓取付用クーラーなど冷房設備を検証し、国の交付金を最大限活用し整備に取り組む。保育園、高齢者施設についてはエアコンなどの取り付け手法や計画的整備を検討してまいりたい。

各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



◆ 横山 清美 よこやま きよみ
議員

経済対策

問 コロナ関連公的支援終了後における 中小企業への支援策等は

答 厳しい状況が続いていると認識しており
関係団体と協議し支援の必要性を見極めたい

問 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」へ移行後も、依然として中小企業は厳しく倒産が増えていく。今までの手厚い公的支援も打ち切れ、さらに物価高騰が追い打ちをかけ、本町も同様で厳しい状況である。引き続き町内企業の持続的な経営が成り立つよう、必要な経済対策を行うべきでは。

答

本町の新型コロナウイルス感染症経済対策として、3年間で33事業を実施し、企業の事業継続と雇用の維持が図られたものと考えている。5類へと移行し経済活動が徐々に動き出し、経済も回復傾向にあるが、物価高騰等の煽りを受け、依然として厳しい状況が続いていると認識している。今後も国・道の動向を注視し、関係団体と協議を行い支援の必要性について見極めてまいりたい。

問

電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金の推奨事

業メニューである「中小企業に対するエネルギー価格高騰対策支援」として新たな経済対策への支援は。

答

商工会議所等の意見をしっかりと聞いた中で判断してまいりたい。

労働力不足解消

問

「人手不足」の企業は年々増加しているが、本町でも顕著であり、解決策として外国人労働者の採用に取り組んでいる。今後もあらゆる業種で人手不足となり、外国人労働力が必要である。外国人人材の確保における生活サポートについて、企業の負担を最小化する公的支援

の導入の考えは。

答

本町でも、製造、農業分野などで外国人労働者の方が活躍している。町内企業、関係団体と情報共有し連携を図り、労働力不足解消に向け、社会情勢の変化に対応した施策を検討してまいりたい。

問

即戦力となる外国人の就労が可能となり、自治体が対応すべき課題として、日本語の勉強と住居の問題ではないかと考えるが。

答

公約に外国人労働者等に対する教育機会の推進があり、それを継続させていたただいている。また、仕事をされる場合の住居に困っていることに對しても、きちんと対応すべき検討をしてまいりたい。

部活動の地域移行

問

教員の働き方改革と部活動を両立しようとして、国は公立中学校の休日の部活動を地域に移行していくうえで、2023年度からの3年間を「改革推進期間」と位置づけ、部活動改革を進めていくとしている。本町での改革推進期間である3年間の計画は。

答

3年間の計画については、持続可能な体制を構築するため、本年度中に各部活動の動向と移行の見通しを把握し、令和6年度及び7年度に複数の学校で構成される合同チーム又は拠点校方式への移行と検証を行ったのち、令和8年度から地域移行することを目標に進めてまいりたい。

各議員の一般質問録画映像はQRコードから
アクセスできます



町長の 政治姿勢

◆ 吉住 博幸 議員
よしずみ ひろゆき



問 町長と町民との意見交換会等について

答 町民皆様の声を積極的に聞き入れ
町政に反映させるよう町職員に伝え指示している

は整理・片付けを指
示している。

問 峠の湯のRVパーク

整備の充実を図るべき
では。

答 5年間で1069

件の利用があり、現在
改善策を検討してい
る。利用者に喜ばれる
施設を目指したい。

問 夏休み頃利用者に聞

いたら「もう来ません」
と言われた。焼肉も出
来ず子供の遊び場も無
く、犬の散歩も出来な
いとの事なので、もた
もたしないで施設の整
備をやり美幌の「売り」
にしてはどうか。

答 「売り」としては足

りないのを前提で

作っている。施設整備
は管理している担当
が判断できる範囲で
はないかなと思う。

問 峠の湯は町の施設・所

有で、方針は美幌町が決
めるべきである。※

問 ドローンの活用実績

と今後の考え方は。

答 美幌消防署と経済

部で平成28年より導
入、今まで合計7件
の活用、災害時は特
例で資格・許可の必
要なく特定飛行は行
われないので飛行計画
は作成していない。
飛行区域外で訓練を
しているが今後資格
取得を検討する。

問 昨年6月に法改正が

あり答弁を今一度おさ
らいして頂きたい。自
衛隊の退職予定者は国
費で資格取得できると
聞いている。ドローン
の資格を役場の雇用条
件にしてはどうかと考
える。※

問 専任の検査員配置と

参考見積等に係る経費
予算計上の考えは。

答 技術職の欠員で令

和4年度から専任の
検査員は配置してい
ない。建設部の課長・
主幹職で分担し実施
している。参考見積
は適正な予算計上の
ため各業者にはご理
解を頂いている。専
門の技術職と協議し
ながら発注業務に努
めている。

問 町長が命じれば職員

は他の部署の仕事もさ
せることができると言
う事か。例えば3月4月

に戸籍保険課に総務課
の職員を使える事にな
るのか。課長職は自分
身の仕事をし、さらに部
下の指導もしている。兼
務した時は特別手当で
評価すべきでは。条例を
整備し再任用職員に役
職を付し、気兼ねなく相
談できる部署が必要。10
年ほど前に町長が教育
長の時、大正橋パークゴ
ルフ場の休憩小屋予算
が坪当たり70万円から
80万円で議会の反対を
受け、予算審議がストッ
プし議場で自ら予算執
行に条件を付して新年
度予算を可決した事がある。予算付けの説明で
きる根拠をそろえるべ
き。参考見積をする時現
場測量や図面作成の労
務費含めて依頼された
業者負担なのか。今後発
注工事でもコンサルに
かける必要はなくなる。
※

※印は「質問」に対して
「答弁」がなかったこと
を表しています。

たくさんのご意見・ご要望をいただきました

議会報告会・意見交換会を4年ぶりに開催

8月5日、美幌町自治基本条例に基づく「議会報告会・意見交換会」を、2班に分かれて、昼の部2会場(美富集会室・東町集会室)と夜の部2会場(町民会館・青稲地区ふれあい会館)の4会場で開催し、のべ43名の方にご参加をいただきました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

従来の方式を見直し、町民の皆様の参加機会を増やすとともに、より丁寧にご意見・ご要望などをお聞きできるよう、2班に分かれ、4会場で開催させていただきました。

戸澤議長、馬場副議長から第20次議会の新体制の報告や各常任委員会の役割などを説明した後、参加者の皆様と意見交換会を行いました。

ご意見・ご要望がありました内容の一部をご紹介します。

- 公園樹木を伐採すべきでは
- 空き地の対応に困っている
- ドッグランを作っては
- 航空公園の利用価値を高める努力を
- 議会の情報発信を

ご意見・ご要望については、今後、町からの回答を受けてお知らせします。



美富集会室



東町集会室



町民会館



青稲地区ふれあい会館

議会が身近になる広報紙づくりへ

議会広報研修会に議会運営委員3名が出席

議会広報研修会が8月17日、札幌市で開催され、本町議会から議会運営委員の3名(伊藤・藤原・馬場)が出席しました。

研修会では、(一社)自治体広報研究所代表理事・広報アドバイザー金井茂樹氏から「伝わる議会報の編集ポイント」と題した講義を受け、議会広報紙の紙面編集のポイントを学び、今後の広報紙編集作業の参考となる研修会となりました。



議会を傍聴しませんか

定例会は年4回(3月・6月・9月・12月)開かれ、議場入口にある受付票に住所及び氏名を記入いただければ、どなたでも議会を傍聴できます。

12月定例会は12月12日(火)頃から開かれる予定です。

日程が正式に決まり次第、町のホームページなどでお知らせします。

9月定例会の傍聴者は13名でした。皆様の傍聴をお待ちしております。

議会ホームページもご覧ください

「本会議開会中のライブ中継」や常任委員会の開催日などもお知らせしています。

美幌町ホームページから「美幌町議会」をご覧ください。

QRコードからアクセスできます



美幌町議会 定例会・臨時会
ホームページ閲覧件数

月日	会議名	閲覧件数
9月12日	第5回定例会第1日	228件
9月13日	第5回定例会第2日	226件
9月14日	第5回定例会第3日	245件
9月15日	第5回定例会第4日	143件

議会運営委員会

委員長	上杉 晃央
副委員長	伊藤 伸司
委員	馬場 博美
委員	横山 清美
委員	藤原 公一
委員	松浦 和浩

▼議会広報紙は「議場における議論」議決に至った過程を公正、的確にお伝えすることを使命とし、紙面の充実に努め、より多くの方々に読んでいただけるよう研鑽を積んでまいりますので、今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。(伸司)

▼議会広報紙は「議場における議論」議決に至った過程を公正、的確にお伝えすることを使命とし、紙面の充実に努め、より多くの方々に読んでいただけるよう研鑽を積んでまいりますので、今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。(伸司)

▼新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが今年5月に5類に移行し、経済活動や交流活動が復活してきていますが、まだまだ町民生活は戻ってはいません。

▼昭和35年に「議会を町民の身近なものに」を願い創刊した議会広報紙は250記念号を発行するに至りました。

あとがき